

令和2年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門

政策No.	27	豊かで多様な文化に包まれた都市を育む		
所管部	産業・地域振興支援部	関係部	教育推進部	

2 政策がめざす方向性

多くの文化芸術施設や大使館等が集積し、区民や文化芸術に関連する団体・企業による自主的で多種多様な文化芸術活動が盛んに行われている港区の地域特性や多様な文化資源を生かし、誰もが文化芸術を鑑賞・参加・創造できる機会の充実、多様な主体間の協働による文化芸術振興、文化芸術都市に向けた基盤整備を進めます。有形無形の文化財、史跡、旧跡、名勝、天然記念物など多彩な自然・歴史文化資源の保全・継承・活用を促進し、区民が誇りに思える郷土意識の醸成を図ります。

3 施策の取組状況（詳細別紙施策評価シート）

評価区分 A（達成）、B（概ね達成）、C（達成が不十分）

①	施策名	誰もが文化芸術を鑑賞・参加・創造できる機会の充実	評価	B
	成果目標	誰もが文化芸術に触れられる環境の整備により、より多くの区民が文化芸術を鑑賞・参加・創造する機会が充実している		
②	施策名	多様な主体間の協働による文化芸術振興	評価	A
	成果目標	多様な主体による協働が進み、新たな文化芸術活動の創造・推進につながっている		
③	施策名	文化芸術都市・港区に向けての基盤整備	評価	A
	成果目標	東京2020大会に向けた取組や（仮称）文化芸術ホールの整備が進み、文化芸術都市・港区に向けての基盤整備が進んでいる		
④	施策名	自然・歴史文化資源の保全・継承・活用の推進	評価	B
	成果目標	自然・歴史文化資源の収集・保存・調査研究が進み、保全・継承・活用が推進されている		
⑤	施策名	区民が誇りに思える郷土意識の醸成	評価	A
	成果目標	区民や様々な機関との連携、協働が進み、文化財保護意識が高まっている		

4 予算額・決算額・執行率（単位：千円）

年度	平成30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度
予算額	841,258	763,502	706,553
流用・補正	△ 86,546	△ 13,960	—
決算額	691,256	680,951	—
執行率	91.6%	90.8%	—

予算・決算額の推移
旧公衆衛生院修理報告書の作成が終了したことや文化財指定の予定が減少したこと
から文化財保護等に係る補助金等が減少したほか、郷土歴史館の開設準備が終了した
ことから、収蔵資料の運搬料が減少しました。

5 政策を取り巻く社会経済状況等

計画期間中の社会経済状況等の変化 ・社会経済状況 ・人口動向（年少人口、生産年齢人口、老年人口） ・財政状況など	・平成29年6月に「文化芸術基本法」、平成30年8月に「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行され、誰もが等しく文化芸術を鑑賞・参加・創造することができる環境の整備や観光、国際交流、福祉等各分野との有機的連携の重要性が増しています。 ・「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」（令和2年4月20日閣議決定）では、人々の心を癒し、明日への希望を与え、社会の基盤をなす文化芸術は、豊かで潤いのある生活に極めて重要な存在であるとしており、区民の鑑賞・活動機会の再開が求められています。 ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が延期され、2021年も港区ならではの文化プログラムに取り組む必要性が生じています。 ・埋蔵文化財という性質上、収蔵資料が大幅に増加していく現状があります。
区民ニーズ等 ※区民アンケートや調査、区民から寄せられた意見等	・令和元年度港区文化芸術実態調査によると、区民の鑑賞率・活動率は、3年前の調査に比べ約2割増加し、全国や東京都と比べても高くなっているものの、育児や介護、障害などにより文化芸術を鑑賞・活動できていない区民が一定数存在します。 ・区民も文化芸術団体も、令和9年度開設予定の区内で初めての文化芸術の専門施設となる（仮称）文化芸術ホールに対し、大きな期待を寄せています。 ・郷土歴史館の展示室利用者のリストバンドについては、不必要との改善要望が継続して出ており、新型コロナウイルス感染症対策の観点からも、必要性を検証する必要があります。 ・郷土歴史館自体を広く周知するとともに、館内の案内を分かりやすくし、利用者の利便性を向上していく必要があります。

6 一次評価（所管部門による評価）

	施策の達成度 A:達成 3 B:概ね達成 2 C:達成が不十分 0
政策の達成状況	・港区ならではの文化プログラムにおけるバリアフリーの取組などにより、より多くの区民が文化芸術を鑑賞・参加・創造する機会が充実しました。 ・文化芸術活動サポート事業の実施により、団体の自立的な運営が進んでいます。 ・（仮称）文化芸術ホールの整備については、有識者会議や文化芸術ホール参与を設置し、令和9年度開館に向けた検討を進めています。 ・郷土歴史館は、複合施設として開館し、徐々に認知度も高まり、文化財保護意識も醸成されつつあります。また、収蔵資料の増加に対応するため、デジタル化を更に進める必要があります。
今後の政策の方向性 重点的・優先的に取り組む施策、課題等 ※国や東京都、他団体の動向、区民ニーズ等を踏まえる	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により区民の文化芸術の機会が減少している状況を踏まえ、区内の文化芸術環境の充実に向けた取組を推進します。 ・「文化芸術基本法」の制定や育児や障害などにより文化芸術を鑑賞・活動できていない区民の存在、区民の国際文化交流への意向の高さなどから、より一層、文化芸術をとoshした共生社会の実現への取組を進めます。 ・「文化芸術基本法」に他分野と連携の重要性が盛り込まれたことを踏まえ、多様な主体間の連携等を支援するためのコーディネート機能の整備を検討します。 ・港区ならではの文化プログラムの取組の成果をレガシーとして（仮称）文化芸術ホールの整備につなげるとともに、区の中核拠点施設となるよう、専門家の意見を聞きながら、開設準備を進めます。 ・文化財保護意識の更なる醸成を図るため、さらに魅力ある郷土歴史館となり、入館者数の増加を進め、収蔵資料のデジタル化を推進する仕組みを検討していきます。

7 二次評価（港区行政評価委員会による評価）

	☒ A:達成 ☐ B:概ね達成 ☐ C:達成が不十分
政策の達成度	・施策「多様な主体間の協働による文化芸術振興」及び「文化芸術都市・港区に向けての基盤整備」において全ての活動指標が成果目標に達しています。 ・政策としても総合して成果目標を達成しているものと評価します。
今後の政策の方向性 重点的に取り組む施策・課題	・文化芸術ホールの開館に向け、多くの人が文化芸術に親しめるよう文化プログラム等の取組を進める必要があります。 ・地域特性である博物館、美術館、大学等との連携や、ボランティアや文化資源などの豊富な地域資源を十分に活用することで更なる機会の充実が図れます。 ・ボランティア等人材確保やITを活用したデジタル化については、達成が不十分であり、活動指標の見直しと併せ、地域資源の活用や外注も含め、進め方の検討が必要です。

施策評価シート

施策① 誰もが文化芸術を鑑賞・参加・創造できる機会の充実					A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分	
施策担当課	国際化・文化芸術担当	関係課		評価	B：概ね達成	
成果目標	誰もが文化芸術に触れられる環境の整備により、より多くの区民が文化芸術を鑑賞・参加・創造する機会が充実している					
成果目標の達成状況及び評価	ロビーコンサートやミナコレの実施、六本木アートナイトや文化プログラム連携事業におけるバリアフリーの取組などにより、より多くの区民が文化芸術を鑑賞・参加・創造する機会が充実した結果、区民の鑑賞率・活動率が上がりました。（令和元年度港区文化芸術実態調査による）					
今後の施策の方向性・課題	育児や障害などにより文化芸術を鑑賞・活動できていない区民の存在や、区民の国際文化交流への意向の高さから、バリアフリーへの対応など、より一層、文化芸術をとおした共生社会の実現への取組を進めます。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 誰もが鑑賞・参加・創造できる環境の整備					国際化・文化芸術担当	
活動指標	H29（2017） （当初）	R2（2020） （目標）	H30（2018） （実績）	R元（2019） （実績）	R2（2020） （予測）	達成状況
ロビーコンサート鑑賞人数	690人/年	750人/年	1120人/年	760人/年	600人/年	A：達成
達成状況	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度のロビーコンサートの開催回数が減少する見込みであることから、鑑賞人数は目標の8割と予測しています。 区内で活動する音楽愛好家等の演奏によるロビーコンサートや、区民がプロのアーティストと練習し成果発表をする文化芸術フェスティバルを開催することにより、誰もが鑑賞・参加・創造できる機会を多くの区民に提供しました。					
今後の方向性・課題	年齢や障害の有無、国籍等にかかわらず、より多くの区民に鑑賞・参加・創造の機会を提供できるよう、バリアフリーに配慮した取組などを充実します。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実施時期を見極める必要があります。					
2 多様な文化資源を生かした国際都市・港区ならではの文化芸術振興施策の推進					国際化・文化芸術担当	
活動指標	H29（2017） （当初）	R2（2020） （目標）	H30（2018） （実績）	R元（2019） （実績）	R2（2020） （予測）	達成状況
文化芸術のちから集中プログラム（通称：ミナコレ）スタンプラリー参加者数（景品交換数）	1,868人/年	1,968人/年	2,056人/年	1,123人/年	1,600人/年	B：概ね達成
達成状況	ミナコレスタンプラリー参加者数は、参加館の減少により令和元年度に下がっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施時期を夏休み期間からずらす見込みであることから、令和2年度の参加者数は目標の8割と予測しています。 区内の美術館・博物館を巡るミナコレや、六本木のまちを舞台とするアートの祭典である六本木アートナイト、東京国際映画祭により、区民や外国人を含む観光客が区の豊富な文化資源を実感し、その魅力を世界に向けて発信しました。					
今後の方向性・課題	区民等がより多くの文化資源に触れ、区の魅力を実感できるよう、ミナコレ参加館を増やすなど、より多くの文化資源を活用した事業を推進します。					

施策評価シート

施策② 多様な主体間の協働による文化芸術振興					A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分	
施策担当課	国際化・文化芸術担当	関係課		評 価	A：達成	
成果目標	多様な主体による協働が進み、新たな文化芸術活動の創造・推進につながっている					
成果目標の達成状況及び評価	文化芸術活動サポート事業や文化芸術ネットワーク会議の実施により、文化芸術団体の自立的な運営が促されるとともに、異なるジャンルの団体や学校等多様な主体間の交流・連携が進んでいます。					
今後の施策の方向性・課題	平成29年6月改正の文化芸術基本法において他分野と連携の重要性が盛り込まれたことを踏まえ、港区文化芸術活動サポート事業助成団体を含めた多様な主体間の連携等を支援するためのコーディネート機能の整備を検討します。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 文化芸術を通じた多様な主体間の交流・連携の促進					国際化・文化芸術担当	
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
港区文化芸術ネットワーク会議への参加団体数	40団体	50団体	60団体 (+20団体)	71団体 (+11団体)	70団体 (-1団体)	A：達成
達成状況	文化プログラムや共生社会に向けた取組など、区内団体の興味関心のあるテーマ設定や、観光や福祉など他分野の団体の参加も促して実施したことで、目標を超える参加団体数を達成する見込みです。また、令和元年度第2回会議のアンケートでは、参加者の9割以上が「有益だった」と回答しました。					
今後の方向性・課題	区内団体の興味関心のあるテーマ設定を心がけ、参加団体数を増やすとともに、これまで会議の場で多様な主体間が交流できる機会を提供してきたものの、複数の主体が連携して継続的に事業を実施している事例がまだ少ないため、会議の手法を工夫するなどにより、多様な主体間の連携を促していきます。					
2 文化芸術振興に取り組む多様な主体への支援と連携					国際化・文化芸術担当	
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
港区文化芸術サポート事業助成団体から港区文化プログラム連携事業指定団体に移行した団体数	3団体/年	2団体/年	5団体/年	5団体/年	4団体/年	A：達成
達成状況	港区文化芸術活動サポート事業の助成金や専門家によるアドバイスにより区が文化芸術団体を支援することで、団体の自立的な運営や継続的な活動、事業規模の拡大を促し、目標を上回る数の団体が、区と連携して発信力のあるイベントを主催する港区文化プログラム連携事業指定団体に移行しました。					
今後の方向性・課題	港区文化芸術活動サポート事業については、活動費助成や専門家によるアドバイス支援のみならず、文化芸術をとおした共生社会の実現に向けたバリアフリー対応や多言語化などの取組を支援し、促していきます。					

施策評価シート

施策③ 文化芸術都市・港区に向けての基盤整備					A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分	
施策担当課	国際化・文化芸術担当		関係課		評 価	A：達成
成果目標	東京2020大会に向けた取組や（仮称）文化芸術ホールの整備が進み、文化芸術都市・港区に向けての基盤整備が進んでいる					
成果目標の達成状況及び評価	港区ならではの文化プログラムの推進をととして、区や多様な主体が連携し、年齢や障害の有無、国籍等にかかわらず文化芸術を鑑賞・参加・創造できる機会が拡大するなど、文化芸術都市・港区に向けての基盤整備が進んでいます。					
今後の施策の方向性・課題	港区ならではの文化プログラムの取組により醸成された価値観や人材、知恵などのレガシーを（仮称）文化芸術ホールの整備につなげることで、区の文化芸術振興施策のさらなる推進をめざします。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 港区ならではの文化プログラムの推進					国際化・文化芸術担当	
活動指標	H29（2017） （当初）	R2（2020） （目標）	H30（2018） （実績）	R元（2019） （実績）	R2（2020） （予測）	達成状況
港区文化プログラム連携事業指定事業数	17事業/年	38事業/年	25事業/年	33事業/年	40事業/年	A：達成
達成状況	東京2020大会に向けた気運醸成や多様性を認め合える価値観など次世代に継承できるレガシーの創出に向けて、目標を上回る数の文化プログラム連携事業の実施や六本木アートナイトへの参画を行いました。 令和2年度の事業については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、中止または延期になっています。					
今後の方向性・課題	港区ならではの文化プログラムの取組の成果をレガシー（醸成された価値観や人材、知恵など）として、東京2020大会以降に継承するとともに、（仮称）文化芸術ホールの整備につなげていきます。					
2 文化芸術振興の中核拠点となる（仮称）文化芸術ホールの整備					国際化・文化芸術担当	
活動指標	H29（2017） （当初）	R2（2020） （目標）	H30（2018） （実績）	R元（2019） （実績）	R2（2020） （予測）	達成状況
（仮称）文化芸術ホールの整備	—	建設中 1施設	設計 1施設	建設中 1施設	建設中 1施設	A：達成
達成状況	浜松町二丁目地区市街地再開発組合が設立され、権利変換計画の同意及び組合保留床に関する覚書を組合と締結しました。また、有識者会議や文化芸術ホール参与を設置して、専門家の意見を聞きながら、令和9年度の開館に向けて検討を進めています。					
今後の方向性・課題	整備スケジュールが長期に渡るため、浜松町二丁目地区市街地再開発組合と連携しながら丁寧に整備を進めていきます。また、区で初めての文化芸術の専門施設であることから、令和9年度の開館に向け、区の中核拠点施設となるよう、専門家の意見を聞きながら、管理運営計画や開設準備業務を進めます。					

施策評価シート

施策④ 自然・歴史文化資源の保全・継承・活用の推進						A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分	
施策担当課	図書文化財課		関係課	総務課、教育長室		評価	B：概ね達成
成果目標	自然・歴史文化資源の収集・保存・調査研究が進み、保全・継承・活用が推進されている						
成果目標の達成状況及び評価	郷土歴史館の開設後の新施設運営に関する業務量が多く、資料収集・受入れ登録にかけられる時間が少なく、また、埋蔵文化財に係る業務が膨大でしたが、目標を達成できました。今後は、施設運営も円滑に進むようになるとともに業務分担の見直しや業務効率化を図ります。						
今後の施策の方向性・課題	成果目標の達成に障害となる課題を抽出し、さらなる検討を進めながら目標達成への解決を図ります。						
施策の推進のため取り組んでいる事業							
1 港区史編さん							総務課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況	
刊本の完成とWeb版の公開	資料調査及び執筆	刊本完成、Web版公開 ・自然史 ・原始編 ・古代編 ・中世編 ・近世編 ・図説版 作成中 ・近代編 ・現代編 ・資料編	資料調査及び執筆	資料調査及び執筆	刊本完成、Web版公開 (「港区史」通史編原始・古代・中世、近世(上・下)、自然編、「図説 港区の歴史」) 作成中 「港区史」通史編近代、現代、資料編	B：概ね達成	
達成状況	・令和2年度に刊本が完成する各時代については、執筆者による執筆作業により原稿の提出がされ、監修者による監修作業や編集作業が行われています。 ・近代及び現代の監修者・執筆者は、構成を検討し、史資料調査を行っており、区所蔵の行政文書の閲覧や区職員等へのヒアリングを行っています。 ・編さん委員会にて、区史の材質等を決定し、当初令和2年3月刊行予定のスケジュールを10月に変更することが承認されました。						
今後の方向性・課題	令和2年10月に、「港区史」通史編(原始・古代・中世、近世)、自然編、「図説 港区の歴史」の刊本完成、12月にWeb版公開を行う予定だが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、細かい調整等が進まず監修作業や校正作業等が思うように進まない状況です。						
2 港区教育史編さん							教育長室
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況	
刊本の完成とWeb版の公開	資料調査及び執筆	・刊本完成、Web版公開「通史編」、「資料編」 作成中 ・くらしと教育編	・資料調査及び執筆「通史編」、「資料編」 ・資料調査「くらしと教育編」	・資料調査及び執筆「通史編」、「資料編」 ・Web公開「見る・知る・伝える」 ・資料調査「くらしと教育編」	・執筆及び編集「通史編」、「資料編」 ・作成中「くらしと教育編」	B：概ね達成	
達成状況	「通史編」・「資料編」については遅れが生じ、現在、資料調査及び執筆を行っている段階です。なお、編さん過程で発見された貴重な歴史資料を公開し、港区の教育史に興味を持ってもらうため作成したweb版「見る・知る・伝える」については、令和元年度末公開したほか、子どもや保護者、地域の方々の視点で新たに編さんしている「くらしと教育編」については、令和4年度末刊行に向け、予定どおり進んでいます。 ※ 当初計画時「くらしと教育編」としていた書籍名については、名称を正式に決定し「くらしと教育編」としました。						
今後の方向性・課題	編さん委員会委員長、監修者、委託事業者などの関係者とより綿密な連絡、調整を行い、編さん体制を強化するとともに、事業者との定例会において月次ごとの厳格なスケジュール管理を行います。						

3 郷土資料の調査・研究・収集活動の推進							図書文化財課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況	
郷土歴史館文化財資料収集件数	72,495件	80,000件	72,847件 (+352件/年)	75,705件 (+2,858件/年)	77,000件 (+1,295件/年)	A：達成	
達成状況	区が所蔵する区の自然、歴史、文化に関する資料のほか、関連機関等が所有する資料を対象に調査研究を深めます。また、購入・寄贈等による二次資料の収集に努めるとともに、調査、研究の成果を展示や刊行物等を通じて公開しました。						
今後の方向性・課題	新たに開設した郷土歴史館の運営と並行して調査・研究収集活動を推進するには、業務の効率化を図る必要があるとともに、日々大量に増加する文化財の整理を効果的に行うことが必要があります。						
4 自然・歴史文化資源のデジタル形式の保存と公開							図書文化財課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況	
デジタル公開件数	-	22,000件	100件 (+100件/年)	100件 (±0件/年)	100件 (±0件/年)	C：達成が不十分	
達成状況	郷土歴史館の開設に合わせ、新たなシステムによる区の指定文化財や区が所蔵している江戸図、浮世絵等のデジタル形式による保存を進めました。旧郷土資料館時に蓄積していたデータについては、新システムへの移行準備を進めています。デジタル化したデータについては、インターネットで公開しています。						
今後の方向性・課題	22,000件の中から、デジタル化する資料の対象を適切に選別し、着実に進めていく方策を検討します。 デジタル化には、学芸員自らが所蔵資料の整理、データの確認、撮影などの作業を行うため、十分な作業時間の確保が必要です。 デジタル化が完了したものについては、速やかにホームページで公開していきます。						
5 伝統工芸等の記録による保存と継承手法の検討							図書文化財課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況	
記録映像制作数	—	3 件	1件 (+1件/年)	1件 (±0件/年)	2件 (+1件/年)	C：達成が不十分	
達成状況	伝統工芸を次世代に継承するための、映像化しました。						
今後の方向性・課題	伝統工芸の記録・保存方法と継承手法については、費用対効果等様々な方向から検討する必要があります。また、伝統工芸の技術を持つ方の協力を受ける必要があります。						

施策評価シート

施策⑤ 区民が誇りに思える郷土意識の醸成						A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分			
施策担当課		図書文化財課		関係課		評 価		A：達成	
成果目標		区民や様々な機関との連携、協働が進み、文化財保護意識が高まっている							
成果目標の達成状況及び評価		郷土歴史館が開設し、運営していくことと並行して、文化財保護意識の醸成や生涯学習の推進を図るためには、講座準備の工夫や外部講師の活用などの対策を取っていく必要があります。							
今後の施策の方向性・課題		今年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で入館者数や事業などの参加者数の減が見込まれますが、事業の安全性や感染防止対策を万全に実施し、郷土意識・文化財保護意識の醸成・啓発を推進していきます。							
施策の推進のため取り組んでいる事業									
1 文化財保護意識の醸成						図書文化財課			
活動指標		H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況		
郷土歴史館利用者数		8,000人/年	90,000人/年	58,099人/年	134,451人/年	150,000人/年	A：達成		
達成状況		特別展などでテーマに沿った文化財等の所有者や管理している機関と連携しながら展示を開催するとともに、郷土資料館講座等各種事業を実施しました。また、各種刊行物の作成などでも当該知識に長けた学識経験者に執筆を依頼するなどの充実を図っています。							
今後の方向性・課題		郷土歴史館が開設されたことにより、文化財保護意識を醸成するとともに、魅力ある展示を行い、さらに充実するように検討します。							
2 文化財保護の仕組み確立						図書文化財課			
活動指標		H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況		
文化財指定・登録件数		184件	195件	186件 (+2件/年)	190件 (+4件/年)	194件 (+4件/年)	A：達成		
達成状況		区内に所在する歴史的価値のある資料等を文化財として指定や登録を行い、文化財保護の意識の啓発や普及を行い次世代に継承していきます。また、文化財の所有者等とは、随時個別に打合せ等を実施しました。							
今後の方向性・課題		文化財の所有者との理解を得ながら、種類に応じた保護の仕組みを検討します。							

3 学校教育・生涯学習との連携強化							図書文化財課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況	
郷土歴史館講座等の参加者数	300人/年	460人/年	1,263人/年	5,894人/年	6,000人/年	A：達成	
達成状況	小・中学校が夏休みの期間に郷土歴史館と東京海洋大学との連携講座を実施しました。						
今後の方向性・課題	学校の夏休みの時期以外に実施が困難ですが、夏休み以外の時期に実施する事業を検討する必要があります。また、新型コロナウイルス感染症の影響で、今後の事業の開催や方法が不透明です。						
4 文化財保護及び郷土史継承活動推進のための人材育成							図書文化財課
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況	
ボランティア登録人数	-	15人	0人 (±0人/年)	0人 (±0人/年)	0人 (±0人/年)	C：達成が不十分	
達成状況	各総合支所が実施する歴史講座や歴史セミナー等に郷土資料館の学芸員を派遣し支援する中で、ボランティアの必要な資質を探るとともに、参加者に関心や知識を深めてもらいましたが、ボランティアへの興味を持ってもらうに留まりました。						
今後の方向性・課題	各総合支所が実施する区の歴史に関する事業の支援とともに、郷土歴史館として、文化財保護及び郷土史継承活動に興味があり、意欲的に活動できる人材を集めていく必要があります。 そのために、郷土歴史館で「ボランティア育成講座」を試行するなどして、人材を発掘し、育成していくための有効な手法を見出し、実施していきます。						